



井戸端
市政
会議

高校・高専・大学

教育トツプ座談会

特集



地域に根ざした教育

若者定住の人材育成

南国市には、高校から大学まで七校の高等教育機関があります。しかし、いままですべて一堂に会する機会がありませんでした。

このころ、国は「地方の主体性を重視する方向」にあり、これに地方がどう応えていくか、行政の姿勢と力量が問われる時代です。市では、恵まれた立地条件を備えながら、現実の厳しい財政状況の中でビッグプロジェクトを選択し、行政挙げて取り組んでいます。それは超高齢化社会を目前にして、若者が定住する職・住・遊・学の施策が急務だからです。そのため、21世紀に自立を目指して挑戦する拠点都市・南国市への理解と教育振興、とりわけ人材育成についての提言を得るため、初めての高校・高専・大学トツプ南国座談会が開かれました。



開発志向からソフト路線へ
まず、司会の西森所長が「市財政は極めて厳しいが、初めから出来ない、ではなく発想の転換が大切。各界の英知の結集と積極志向で克服し、求心の

力のある副都府づくりに反映してほしい」と切り出し、大町市長に市政の現状報告を求めました。大町市長は「地方拠点都市南国市として県勢発展の役割を担っている。先行き不透明な、極めて厳しい財政環境のもとで事業の選択や山積みする重要課題への取り組みに提言を得たい」と挨拶。そして、現在ハート事業では高知空港拡張整備、南国オアシスパーク、後免町市街地再開発、し尿処理場の建設、ほ場整備と農業集落排水事業などが目白押しである。ソフト面では生涯学習構想、老人保健福祉計画、健康文化都市構想などを策定してきた。

今年には行政の基本となる市総合計画を全面改訂する。そのポイントは「開発からソフト重視、ソフト路線への転換」を基調としたい。地方の主体性重視の動向や県計画の中核都市としての位置づけ、平成十四年開催の国体なども視野に入れて、「行・産・学」の連携した人材育成を切めとする若者が定住する諸施策について

てきたんのない提言を願いたいと要請しました。

生徒の減少
悩みの多い

まず、自己紹介、学校紹介から入り、それぞれの抱えている課題や特色ある学校づくり、市のまちづくりへの発言がありました。高校で悩みの多いのが生徒の減少や多様化への対応。東工高は機械科二、電子科二、電子機械科一の五クラスで約六百人。時代の要請で進学希望や継続教育への対応で理工学科を新設。今回、認可にならなかつたが機械科の二クラスを地場産業の人材づくりに役立つ機械生産システム科にする構想もある。「理工科の新設は生き残りかけた措置だ」と野町校長は言います。

高知農高は深刻で県下十数校あつた農業高校が現在わずか三校。さらに定員に達しない状況。二葉学園の施策で農業高校にしわ寄せが来ている。農業土木科は大学進学の期待も大きい。優秀な人材の集まっていた林科は林業の低迷で一番落ちこんでいる。

同豊高校は学力伸長、個性・特技技能修得を三本柱に五類型九コースで、特色ある音楽・美術・書道・体育の四コースには生徒も多かった。

ツシユ教育として大学の再教育に挑戦してはというわけです。

学習センターの役割

当初から特色ある教育課程を持ち、全国的にも注目された。しかし、個性化だけでは対応できず、進路に応じた自由選択科目も検討するなど、悩みもある。小松校長は「昨年はマング甲子園で優勝、魅力ある学校づくりで文部大臣奨励賞も授賞した。全国から九十六校三百人の視察もあつた」と報告がありました。

文化系を重視した教育課程を

のをしっかりと身につけて卒業してもらっている。「特に英語に力を入れ、中学一年生から英会話を取り入れ、文化系を重視した教育課程をつくっている」と矢野校長の話でした。高知農高では女子の短大・大学への進学が増えている。また、農業関連産業に就職する生徒も増えて農業経営科を生活経済科にした。昭和三十年代の農業所得は都会のサラリーマンの所得を超えていた。社会変化に対応した企業感覚が必要。「農業は決して暗くない」と、高知農高山口校長。「農業と他産業とのバランスのとれた行政が重要。基盤整備は一番遅れている」と強調されています。

学校施設を開放 健康の勉強会など

高知大農学部が目標に置いているのが特色ある教育・研究、先端的な研究、開かれた大学、地域に根ざした教育の四本柱。教育内容の変更で一般教養が共通教育となり一回生から四回生まで一貫した専門教育・共通教育の形となる。平成八、九年を

目途に二回生も加わり、約二百人の学生が増える。そこで、山本農学部長は「地域に根ざした教育の一環として公開講座を実施し、人材は提供したい」と提案がありました。学校教育や生涯教育は盛んだが、中堅クラスのリブレ

高知医大の喜多村学長からも「病室でない高齢者に図書館を開放したい。生涯学習の場として健康に関する勉強のお手伝いは歓迎する」とグループによる利用を進めてくれています。また、小・中・高校の養護教諭が持っている児童・生徒の健康データをソフトに入れて一生、一人ひとりの健康管理をしてはどうか。ソフトを組むなど全面的に協力したいというありがたい申し出もありました。「地域に根ざした、地域にかかわられる学校にしていかなければならない」と言うのが出席者の共通した認識で、東工野町校長は「地場産業は機械加工が中心で情報技術など幅広い知識を身につけた生徒が望まれている。学校の施設・設備や人材を活用してもらい地域の学習センター的な役割を果たすことが工業高の使命だ」と言います。また、同豊小松校長は「地元の普通校として地元の生徒を入れたい。そのことで、南国市に対する執着心も強くなるのではないかと発言がありました。

自立に挑戦する南国市の教育振興・人材育成

世界一しあわせな市

情報ハイウエー活用で

国際交流で 地域とのふれあい

外国人教師による英会話に力を入れているのは清和女子高。

国際化時代で地域との交流が期待されるが、高知大では大学院の三〇〇名は一般や留学生にするよう匡の指導がある。「現在五十人の留学生がいるが地域との交流を進めたい」と話されている。

医大にも二、三十人いるが、「市民との交流、接触の場をつくってほしい」との要請。また、若いときから国際的な目を開くことが大切で、中高生が海外でホームステイするとき助成してあげてはどうかという提案もありました。



土佐まほろば祭り(8月6日)での国際交流

高知大学農学部、高知医科大学の留学生が参加したコーナーでは、お国自慢の中国の水ギョーザやバングラデシュのサムチャ、フィリピンのピコが大好評でした。

か、コンベンションホールが

若者の定住促進のためには工業化もさげられないが、工業と教育をつなぐ施設は皆無。「地場産業を子供たちにつなご科学的知識や実感を興味深く実行させることも大切」と

清和女子高の矢野校長が提案。サイレントバー、ヤその他の仕組み、港濱掘削機の模型や展示打刃物やICの製造と解説など、得業の産業の芽生えをつくるものがほしい。

また、まちづくりに生産の場と非生産の場のバランスを提案したのが高知大山本部長。「大規模の電車軌道と南田ハイパスとの間の土地を有効利用してコンベンションホール・博物館など文化施設がほしい」木造建築の大きな文化ホール

あればインパクトは大きい。「学会やスポーツ行事など、年間どの程度の量物があるか調査してみようか」と医大喜多科学長。

四国内の六高専の体育大会を行ったが市外の施設を利用するしかなかった。平成十四年国体とも関連するが市民が常にご利用できる体育施設・文化の拠点となる文化ホールの建設を望む高専伊藤校長。

自然の中に “遊”の空間

ユニークな21世紀型のまちづくりを提案したのが医大喜多科学長。「情報は空から降って来る時代、パラパラアン

テナにより、高齢者が一番望んでいられる速くこころ共や茶

たちと顔を見ながら話ができる新しいシステム・情報ハイウエーを敷き詰めた世界中でもっともしあわせな高齢者のいる南門市」「太陽電池の町並み・家々の屋根に太陽電池がある。太陽の輝く南門市の

第五回 「まちづくりふれあい トーク」



今回のテーマは
「国際交流とまちづくり」

世界の中の「南門市」を
市長とともに創造して
みませんか。

対象 南門市在住の20歳以上の方

人数 7人(申込順とします)

とき 平成6年9月28日

ところ 南門市役所会議室

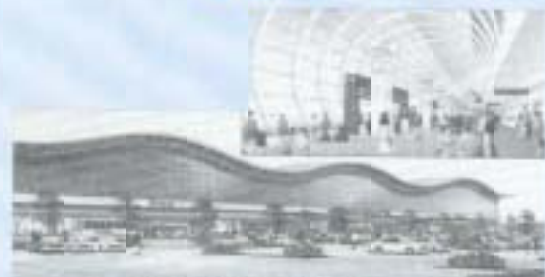
申込先 市企画課広報統計係
☎2111内線423

南の字にそっくりなまちづくりは有名な「なる」

そして、高専伊藤校長「職・住・遊・学」の「遊」の空間が大切。物部川の自然の中に遊び心を育てる環境づくりをする。非生産的なものにはあるが、その非生産的なものに価値を認めて行政が手を加えないとまちづくりはできない」

など、現在策定中の新総合計画に示唆を与えてくれる盛り沢山の提案がありました。最後に、今回の提言を今後の計画や諸施策に生かしていくこと、この会を継続して実施していくことなどを確認して終わりました。

姉妹都市 みちのく 岩沼市



平成9年完成に向け着工した
仙台空港新旅客ターミナルビル

仙台空港

仙台空港の歴史は日中戦争までさかのぼります。日中戦争とともに飛行部隊が拡大され、岩沼市内の矢野目地区(現在の仙台空港)に飛行場を造ることになり昭和8年に仙台空港の前身、名取飛行場が出来上がりました。

昭和31年から航空自衛隊矢野目分校としての使用と同時に民間航空の基地としても開放され、矢野目飛行場と言われるように、34年には、航空自衛隊は閉鎖され、今日の姿である完全な民間専用の飛行場として使用され、37年10月に運輸省は名称を仙台空港と命名。39年には第二種空港の指定を受け、東北の空の玄関口として、今日の発展のスタートを切りました。

平成4年12月、仙台空港の滑走路が2,500mになり、現在、3,000m化に向けた滑走路の工事と新ターミナルビルの建設工事も始まっています。

現在、国内線9路線、国際線5路線が就航。今後も増える見込みであり、名実ともに国際空港としてはばたく日は近くなっています。



イラストも投稿者

アイデア②

青国の未来といっても、今は市独自のものはあまりない。いろいろ造りたいものがあったら金がない。そこで、資金があ

記念碑などは 面白い彫刻で

まりいろいろなアイデアのいいのがあれば最高、賞金つきで全国募集してみたら、そして、すい星を最初に発見した人の名前をつけるようにアイデアを出してくれた人の名をとって、鈴木○○とか、○○佐藤のように名前つきの色々の物があってもユニークだ。

自分たちが子供のころ、園豊山は田圃公園、小室橋は入米橋など製作者の名前で呼ばれていて羨しみがあつたような気がする。

そしてまた、市内あちこちに歌碑や生誕の地、施工記念など、いろいろの碑が建っている。ほとんど自然石や角切りの石で、中には「あれ、こんな所にお墓が」。一と思ふようなものもある。これから碑をつくる時には、いろいろの形をした彫刻物などをつけたらどうか。

市外の人や観光客が「ん、なんだ」と足を止めて見るようなものにしてほしいじゃないか?

(葛目義人・笠の川)

アイデア

ポストから

建設的な提言やアイデアを広く市民のみなさんに投稿してもらっています。アイデアポスト未来くんに寄せられたものです。あなたもこの提言・アイデアを持ってください。

園芸王国に 花の楽園を

桜花が大規模に生産されている。

南園インターチェンジからの入り込み車両は三百一十万七千五百台というデータがある。一日に十五万台を数える日もそう遠くないだろう。

アイデア①

花の生産工場団地に、四季を通じて花が咲く、冬は得意のビニールハウスでの花工場、大駐車場の周辺には花の市が立ち、産直直販の新しく美しい花が、しかも安価で手に入る。

もちろん周辺には桜・梅・桃などから、さつき・つつじ・山ゆりの咲く自然公園的な花木群も整備したい。子供連れが一日ゆっくり花の公園で楽しめる。花中心の園芸施設、ファミリーフラワ―園とも呼んで園芸王国の花となるような施設の創設を展開してみたら……と、心にゆとりのほしい一市民として提案します。

(匿名希望・41歳)

市庁舎一階の市民ホールに設置してあります。毎月料に開けています。

